

ア 「ひきつけよう」でのポイント

「ひきつけよう」の過程においては、本時の主運動につながる体の準備と、課題を確実に捉えるための手立てに取り組むことにした。

ひきつけよう	つかむ・見通す	1 運動の準備 (道具・場)	★ 授業前に鉛筆を1本体育ファイルにはさんでおく。筆箱からの出し入れはしない。
		2 準備運動 体幹トレーニング	★ 座って話を聞くときは、体育座りをする(全体を通して)。 ・ 授業前に子供がしていても、運動で使う部位を中心に再度行う。 ・ 各種運動での技能向上をねらい、体幹トレーニングを取り入れる。 ★ 体幹トレは「呼吸と姿勢」への意識を整えてから取り組む。
		3 <u>きらきらタイム</u>	・ 主運動につながる運動を中心に取り入れる。 ★ 主運動につながるための声かけ、ポイントを大事にする。 (態度的な声掛け：技術的な声掛け＝5：5)を意識
		4 <u>めあての確認</u>	・ <u>問題解決的なめあて</u> を設定する。 ～ICT活用～ 【動画と静止画の適正、意図を明確にして活用を図る】 【何のために】(目的意識)という視点を明確にする]
		5 <u>学習の見通し</u>	・ 単元全体の流れ、一単位時間の流れを掲示する。 【構造的な板書との関わり]



- 体幹トレーニング…各種運動での技能向上をねらって、準備運動の中に体幹トレーニングを必ず取り入れる。ドローインと正しい姿勢を意識させる。
- きらきらタイム…主運動につながる運動に取り組む。態度面の声かけとともに、技術の向上を意識させる具体的な声かけを行った。

- 課題理解につなげる ICT 機器活用
ICTを活用した前時活動の振り返りをし、めあての設定につなげる。目的に合わせ静止画と動画の適切な選択を行うようにした。

イ 「うごかそう」でのポイント

「うごかそう」の過程においては、子供が自他の思いをつなぎながら、より主体的に課題解決に取り組むための手立てに取り組むことにした。

うごかそう	挑戦する	6 挑戦Ⅰ(ポイントの発見)	・ 試しの活動で、自己(チーム)の課題を発見する。 ・ 子供がわくわくする教材・教具、場、ルール、作戦を構想する。 ～ICT活用～ ・ 状況によっては、教師が準備した選択肢を子供の選択肢として取り入れてよい。 ★ 教師の試技(説明)等は最後まで黙って聞く。器具や道具等は触らない。
		7 <u>話し合い</u>	・ 自他の動きから課題探究をする。 ・ 「目的」「方法」「ゴール」を設定する。 ・ ワークシートやホワイトボード、板書を活用してポイントをまとめる。 ～ICT活用～
		8 挑戦Ⅱ(ポイントを基にした練習)	★ 子供の考えを引き出すコーディネートを心がける。教師が話しすぎない。 ・ 運動時間をできるだけ確保する。 ・ <u>よかった動き等は、積極的に紹介する。</u> ～ICT活用～



- 互いの思いをつなぐ話し合い…挑戦Ⅰに取り組んだ後、挑戦Ⅱにつながる「話し合い」の時間を設定するようにした。主体的で課題意識のある話し合いにつながるよう視点を明確にし、子供の実態や学年に応じた話し合いの形態を考えると同時に、学年や単元の内容に合わせてワークシートやホワイトボード、ICT等の機器の活用を効果的に図るようにした。

ウ 「なっとくさせよう」でのポイント

「なっとくさせよう」の過程においては、子供一人一人の達成感や肯定感を高め、次時の学習に向けての課題把握と意欲喚起につなげるための手立てに取り組むことにした。

なっとくさせよう	確かめる (生かす)	9 整理運動	・ 運動で使った部位を中心に行う。
		10 振り返り(成果・課題の共有)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の伸びを実感できるように、全体で価値付ける。(楽しかった→できたから→こつに気付いた、作戦がうまくいった、ルールがよかったなど) ・ 本時の伸びを全体で称賛する。 ★ 教師は、子供の体育ファイル記入をペンでチェックする。 ★ 発表者の方に体を向ける。
		11 学習の後片付け(道具・場)	



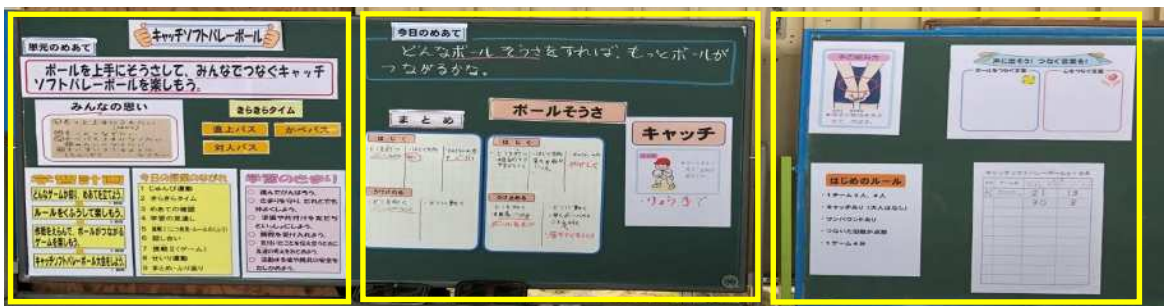
○ 成果や課題をつなげて振り返り……子供の達成感や肯定感を高め、次時の活動への意欲を喚起することへつなげられるように、自己の振り返りをするとともに、成果や課題について全体で共有する。成果を認め、課題を次に生かすことにつなげられるよう、子供の振り返り(ワークシート)をその場で教師がチェックするようにした。

(3) 板書の構造化

体育科の学習における板書については、子供たちの学習の足跡を明確にしてポイントをいつでも振り返ることができたり、課題解決に向けての子供の思考の広がりを受け、次時の学習へつなげたりすることをねらいとして、構造化を図り学校全体で実践している。

具体的には、黒板の左側には「単元全体に関する内容」を、黒板の中央には「本時の学習に関わる内容」を、そして黒板の右側には「これまでの学習で発見したポイント」を掲示するようにした。全体指導計画や一単位時間の指導過程とリンクした構造的板書にすることで、これまでの学習内容や大切なポイント(視点)等が明確になり、子供たちの運動に関わる主体的な態度や思考を助けることにつながっている。また、板書にかかる時間も少なく済み、子供の運動量を確保することにもつながっている。

なお、板書に使った掲示物については、単元ごとにまとめて体育館(体育館で行う学習)や玄関(校庭で行う学習)に保管し、学年を越えて活用できるものは積極的に活用するように、共有化を図っている。



〔左：単元全体に関する板書〕

〔中央：本時の学習に関する板書〕

〔右：これまでの学習に関する板書〕

【図4：本校の板書構造】

(4) ICT機器の活用

新学習指導要領に明記されている「体育の見方・考え方」には、『「すること」だけでなく、「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性等に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えること』とある。ICT機器は、この「運動や



【図5：ICTを活用する子供の様子】

スポーツとの多様な関わり方」を充実させ、主体的な運動への関わりを推進し、仲間と対話しながら課題解決を図ってくれる重要なアイテムであると考え、本校でも体育の学習で積極的に活用を図っていくようにした。その際、低学年と中学年については、ICT 機器を効果的に活用することがまだ難しいため、教師主導で活用するようにしている。高学年については、問題の解決場面を中心に、子供たちが積極的にタブレット PC 等を活用し、学習を進められるようにしている。具体的な活用の場面や方法等については、効果が高かった活用具体例や効果的な活用のアイデアを職員間で話題にするなど、積極的にコミュニケーションを取って情報を共有するようにしている。

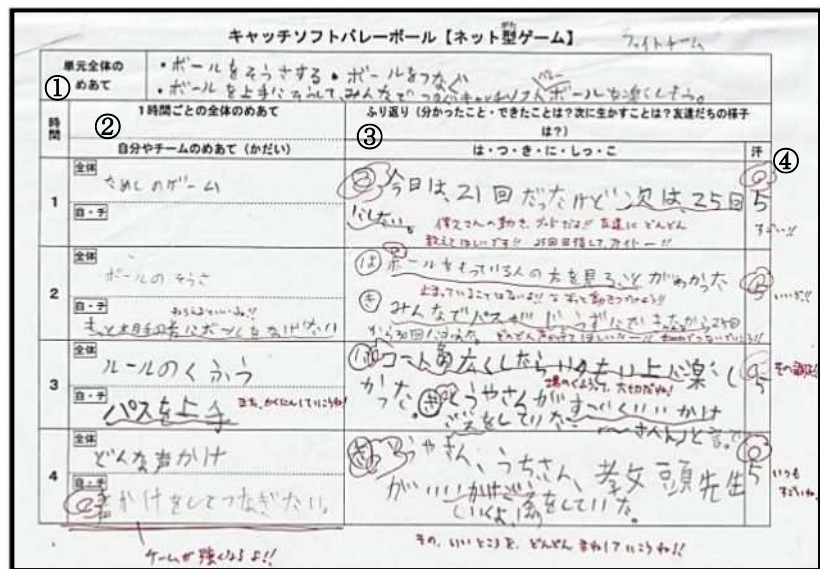
ICT 機器の活用の効果が期待される場面	
活動提示場面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日取り組む活動の映像を提示し、素早くイメージさせる場面 ○ 前時の学習を振り返り、本時の学習につなげる場面
問題解決場面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己やグループの課題を見付ける場面 ○ 録画や静止画を使い、見付けたコツやわかったことを友達に伝える場面 ○ 課題や解決のための動きのポイントを仲間と確認する場面 ○ 動きが高まるポイントを見付け、工夫に生かす場面
評価(振り返り)場面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の活動の様子を映像で見て、ポイントと照らし合わせながら振り返る場面 ○ 蓄積した活動の様子を活用し、どのような変化があったか成長を振り返る場面

(5) ワークシートの活用

本校では、子供が体育の活動を通して達成感や肯定感を味わったり、意欲をもって次の学習に取り組んだりすることをねらいとし、ワークシート(図6)や「ふりかえりタイム」カード(図7)を活用している。

ワークシートには、「①単元のめあて」「②1時間のめあて(全体・個人)」「③振り返り」「④汗(活動量)」「⑤学習を振り返って」の欄を準備し、活動を通して自分がどのように成長したのか、どのように自信が高まっていったのかを振り返ることができるように、授業の終末に時間を設けている。また、授業中や授業後に担任がそれに対するコメントを書き込むようにしたり、専用のフォルダに保存したりし、学級全体で共有化を図るようにしている。

「ふりかえりタイム」カードは、子供たちが覚えやすいように「はつきにしっこ」の頭文字を使って作成しており、他教科でも活用を図っている。視点を自由に選ばせて振り返りをさせたり、教師が視点を定めて振り返りをさせたりするなど、授業の目的に合わせた振り返りを意識している。



【図6：体育ワークシート】



【図7：ふりかえりタイムカード】

(6) 体育ファイルの活用

子供たちの継続的な自己課題追求や、振り返りを通じた成長の振り返りができることをねらって、授業で活用したワークシートや資料、運動や健康に関するワークシート、新体力テストの記録（体力ナビ）や西っ子体力アップカードなど、個々の取組資料をファイリングした「体育ファイル」を準備し、活用を図っている。

授業のワークシートの活用で授業の振り返りを行うことにより、子供たちは自分自身の成長を実感できると共に、自信を深め、さらに友達によさにも気付くことができる。年二回実施している新体力テストにおいては、西っ子体力アップカードや体力ナビを活用することで、自分の過去の記録とも見比べて、自分の課題を自覚した上でめあての設定と振り返りを行うことができる。このように、過去の記録をいつでも振り返ることができるようにしておくことで、日常の運動や授業において自身の課題を意識して目標設定を行うことにもつながっている。



【図8：体育ファイル】

2 仮説2（授業外によるアプローチ）について

(1) 体力向上プログラムの作成

子供の体力向上のためには、1年間を見通した計画的な取組が重要である。そこで本校では年間を見通しを明確にもって、学校が計画的かつ組織的に子供の体力向上に関わり、子供が自らの目標を明確にして主体的に運動に関わっていくことができるよう、「体力向上プログラム」（図9）を作成している。これは、「たくましいかごしまっ子育成推進プラン」とも関連付けている。

令和3年度 西っ子 体力向上プログラム							伊佐市立羽月西小学校					
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点	体力つくりの目標達成への意欲付けをする	体力つくりの運動を促し、体力向上を目指す	水に親ませ各自のめあてに沿った泳力を高める			運動会で力いっぱい競技に取り組む	体力つくりの運動を促し、体力向上を目指す(持久走)	(持久走)	(持久走・縄跳び)	(縄跳び)		体力つくりをふり返し、次年度への意欲付けをする
自主体力つくり	朝の体力つくり(ランニング、短縄跳び、長縄跳び) ※学期末にふり返し					朝の体力つくり(ランニング、短縄跳び、長縄跳び) ※学期末にふり返し						
行事		体力テスト(1回目)		水泳大会 水泳記録会		運動会	陸上記録会	グラウンドゴルフ 体力テスト(2回目)	持久走大会		縄跳び大会	
体育指導	体力向上プログラムの共通理解 体育ファイル・縄跳びカード配布 体力テスト計画・準備	体力テスト実施・分析 体育コーナーの掲示 体力アップカード配布	体力テスト実施・分析 水泳学習の目標設定	体力テスト実施・分析 水泳学習のふり返し 体力アップカードふり返し		運動会の目標設定・ふり返し	体力テスト計画・準備	持久走大会の目標設定 体力テスト実施・分析	持久走大会のふり返し 体力アップカードふり返し	縄跳び大会の目標設定・ふり返し	次年度計画立案 縄跳びがんばり賞の作成	体力アップカードふり返し
仲良し体育	体力つくりオリエンテーション	「チャレンジかごしま」※複数種目				運動会練習	「チャレンジかごしま」※複数種目					体力つくりふり返し
チャレンジかごしま	仲良し体育や教科体育内で取り組む ※8月申告					仲良し体育や教科体育内で取り組む ※1月申告						ふり返し 伸びの確認
遊びの推進	運営・放送委員会を中心に「みんなで遊ぶ日」の設定 ※普通遊びの奨励					運営委員会を中心に「みんなで遊ぶ日」の設定 ※普通遊びの奨励						
家庭・地域との連携	すこやかチェックシート 親子での運動についてPTAで依頼(プラス5分運動、体幹トレーニングなど)	教科体育における学校応援団の活用 体力テスト保護者参加 体幹トレーニング	体幹トレーニング	体力テスト結果報告 心筋発生法講習会 ラジオ体操の奨励 夏休みの課題	ラジオ体操の奨励 夏休みの課題	運動会	体幹トレーニング	体力テスト保護者参加 体幹トレーニング	冬休みの課題	体力テスト結果報告 体幹トレーニング	体幹トレーニング	

【図9：1年間を見通した計画的な取組のために作成した西っ子体力向上プログラム】

具体的には、1年間の体育的行事や重点事項等について年度当初に確認をし、子供の運動意識向上や体力向上への取組をどのように推進していくのか、全職員で共通理解を図るようにし

ている。また、子供たちにもその概要を伝え、さらに「体力向上プログラム」を体育コーナーに常時掲示することで、定期的に確認しながら運動に取り組むことができるようにしている。

さらに、「体力向上プログラム」に関連した個々の目標や取組状況を振り返り、意欲の持続化を図ることをねらって、「西っ子体力アップカード」(図10)を作成している。

具体的には、「朝の体力づくり」「チャレンジかごしま」「体力テスト」の3つについて定期的に振り返りができるようにし、自分の成長や課題を捉えられるようにしている。このカードはいつでも見返すことができるように、個々の体育ファイルに綴るようにしている。

The image shows a detailed 'West Kids Physical Fitness Upgrade Card'. It is divided into three main sections: 1. Morning Physical Fitness (朝の体力づくり), 2. Challenge Kagoshima (チャレンジかごしま), and 3. Physical Test (体力テスト). Each section contains tables for recording dates, activities, and results. There are handwritten notes and drawings throughout, such as '4周走れた' (ran 4 laps) and '縄跳びの回数' (jump rope count). At the bottom right, there is a small cartoon illustration of a child jumping rope with the text 'もっと体力をつけたいな! できるよに毎日15分!' (I want to get more physical strength! 15 minutes every day, I can do it!).

【図10：西っ子体力アップカード】

(2) 「一校一運動」の取組

本校では、縄跳びの技の獲得を通して達成感を感じたり、主体的に運動に取り組んだりする意欲の向上をねらって、一校一運動に「縄跳び」を設定している。

子供たちは、始業前の自主的な体力づくりでの取組、授業での取組など、年間を通して縄跳びに親しんでいる。同級生同士で切磋琢磨して取り組んだり、上級生が下級生に教えてあげたりするなど積極的な姿が見られる。また、自主的で継続的な活動につながるように、個別の「縄跳びカード」を活用してさらに技を向上させるための意欲付けを行ったり、秋季大運動会や授業参観で、子供たちのそれまでの取組の成果を、保護者や地域の方々に見てもらおう機会を作ったりするなど工夫している。



【図11：縄跳びに取り組む様子】

(3) 仲良し体育の取組

仲間と共に運動する楽しさや喜びを感じたり、自己の体力や体の状態に応じた運動への取り組み方を知ったりすることをねらって、仲良し体育の時間を設け取り組んでいる。

具体的には、月1～2回、朝の活動時間に15分間設定している。年度当初に1年間の取組の見通しをもたせたり、運動への関わり方などについて体育主任から子供たちに説明したりして、課題

	実施日	活動内容	場所
1	4月13日(火)	仲良し体育オリエンテーション、年間計画等	体育館
2	27日(火)	体力テスト(実施方法、種目練習)	体育館
3	5月18日(火)	チャレンジかごしま(長縄エイトマン等)	体育館
4	6月8日(火)	チャレンジかごしま(長縄エイトマン等)	体育館
5	22日(火)	チャレンジかごしま(長縄エイトマン等)	体育館
6	9月3日(金)	運動会オリエンテーション	音楽室
7	21日(火)	運動会練習	校庭
8	28日(火)	運動会練習	校庭

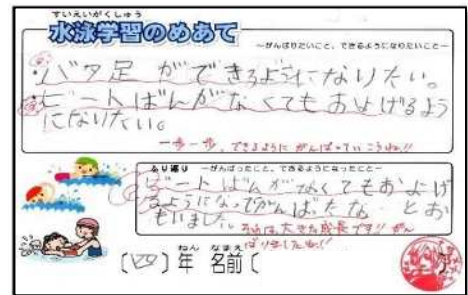
【図12：仲良し体育活動計画の一部】

意識をもって取り組めるように計画している。体力テストや運動会、持久走大会などの体育的行事、「長縄エイトマン」（体力アップ！チャレンジかごしま）に向けて、意欲的に活動する子供たちの姿が見られるようになってきている。

(4) 体育的行事での取組

本校では、1学期に新体力テスト、水泳発表会、2学期に運動会、持久走大会、3学期に縄跳び発表会など、体育的行事を行っている。これらの行事に課題意識や意欲をもって関わることをねらい、「めあてカード」を活用している。

具体的には、行事前に個々の目標を設定し、行事後は振り返りを行う。階段踊り場に設置した「体育コーナー」に全員のめあてカードを掲示し、目的意識を高めると共に、友達の目標を知り、互いに励まし合いながら体育的行事に取り組めるようにしている。「めあてカード」を活用することで、自分や友達の成長を感じ、互いの成長やがんばりを認め合える一助となっている。



【図 13：めあてカード】

(5) KOBA 式体幹トレーニング

本校は5年ほど前から講師を招き、「KOBA 式体幹トレーニング」に取り組んでいる。子供たちは、柔軟性やバランス感覚、動きの連動性や普段の姿勢等に課題があり、これらの課題の改善をねらえる中心的な取組であると共通理解し、継続的に取り組んでいる。

学校においても毎日「体幹トレーニング」に取り組めるように、体育の導入と朝の会に位置付けることを共通理解して実践してきている。実践を重ねていく中で、バランスを崩す子供が少なくなり、自信をもって取り組めるようになってきた。今後も、ポイント（呼吸・姿勢）を大切にしたい取組を継続し、子供たち一人一人の様子を見届け、指導を重ねていきたいと考える。



【図 14：KOBA 式体幹トレーニング】

(6) 校内掲示（環境づくり）

子供が自分の課題や目標に応じて、主体的に運動に取り組めるように、校内や体育館の掲示を整えている。



【図 15：体育館の掲示】



【図 16：体育コーナーの掲示】

校内には、階段踊り場に「西っ子 体力アップへの道」という体育コーナーを設け、年間計画や新体力テスト関連の掲示、「体力アップ！チャレンジかごしま」の経過等を掲示し、運動への意欲喚起を図るようにしている。子供たちが日常的にコーナーを目にすることで、体力アップに向けた諸取組の状況を確認し、目標に向かって取り組む姿につながっている。また、体育

館には、マット運動や跳び箱運動に関する掲示や、体幹トレーニングに関する掲示、プラス5分運動に関する掲示等をしている。運動への意欲喚起と共に、子供たちが様々な運動について関心をもてる機会となるよう、掲示物について話題にしたり、一緒に取り組んだりするなど、工夫しながら活用を図っている。

3 仮説3（家庭や地域との連携によるアプローチ）について

(1) 家庭との連携

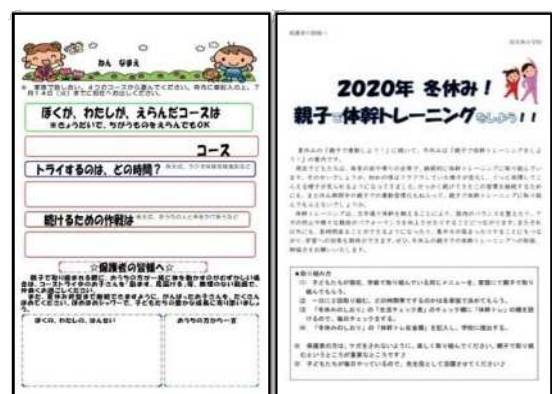
子供の体力向上は、家庭との連携が不可欠である。子供の実態や課題を学校と家庭が共有し、共に課題解決に向けて取り組んでいくこと、家庭での運動を推進することをねらいとし、様々な取組を実践している。

ア 生活リズムチェック表の活用

子供たちの基本的な生活習慣の定着と学力及び体力向上の素地づくりのために、毎月一週間「すこやかチェックウィーク」を設定し、睡眠時間、朝食、歯みがき、ノーメディア、家庭学習等について振り返りを行っている。また、親子での運動推進と家庭での運動習慣の定着もねらい、「すこやかチェックウィーク」期間中に「毎月家族でレッツエクササイズ」という実践にも取り組んでいる。自らの生活を振り返るために、チェックは子供自身が行うようにし、チェック後は、保護者や担任からの励ましや称賛のコメントを付けるようにしている。さらに、エクササイズについても振り返りをし、翌月へ生かせるようにしている。

イ 長期休業中の親子運動の推進

長期休業中の親子での運動推進を図る取組を実践している。夏休みは「親子でなかよくレッツトライ」と題し、「ラジオ体操・ストレッチ・縄跳び・キャッチボール」の4つのコースを設け、その中から一つ選んで取り組むようにした。また、冬休みは、子供が毎日取り組んでいる体幹トレーニングを、家庭でも親子で取り組むようにした。高い意識をもって取り組んでもらえるように、長期休業前のPTAで取り組み方やその根拠等について、必ず保護者に説明をしている。



【図 17：運動推進の案内パンフレット】

ウ 体育的行事への保護者参加

子供の実態や運動への取り組み方を知ってもらい、家庭で運動に取り組む意識を高めることをねらいとして、KOBAS式体幹トレーニングや体力テストなど、体育的行事への保護者の参加を呼びかけている。



【図 18：親子で体幹トレーニング】



【図 19：親子で体力テスト】

親子で同じ活動に取り組むことで、行事に対する子供の意欲が高まり、また保護者は、子供の活動や実態を理解する機会となり、より積極的で、課題意識をもった家庭での取組にもつながっている。

(2) 地域との連携

本校は極小規模校であるため、多種多様な運動・競技に取り組んだり、様々な場やルール等の工夫を楽しみながら運動したりするには制限がある。そこで、子供たちの運動意欲を喚起し、様々な場やルールの中で運動を楽しんでもらえるように、地域との連携にも力を入れている。

ア 学校応援団の活用

極小規模校においては、特にボール運動系の領域において、チーム編成が難しいという課題がある。そこで、コミュニティと連携して、学校応援団に協力を依頼し、チームの一員や相手チームになっていただいている。そうすることで、3対3、4対4、5対5のチーム編成をすることができ、チームでの練習や作戦の実施に役立っている。また、技能面の気付きや意欲の向上にもつながっている。

活用までの流れ

- ① 学校応援団活用の年間計画（予定）の提出
（学校→コミュニティ）
 - ② 学校応援団活用可能・不可能の確認
 - ③ 単元開始前に細かい日程や内容の調整
（学校→コミュニティ）
 - ④ 学校応援団の活用
- ※ これまでの活用
- ・ ティーボール ・ ソフトバレーボール
 - （3・4年生） （5・6年生）



【図 20：学校応援団とのソフトバレーボールの様子】

イ 地域人材の活用

学校応援団とともに活用を推進しているのが、地域人材である。子供たちの運動への意欲向上や各種競技の上達のポイントを学ぶことをねらい、専門的な知識をもつ経験豊かな地域人材を活用している。

例えば、本市で活動が盛んなカヌー競技の振興に取り組んでいる講師を招き、毎年「カヌー教室」を実施している。また、本校児童の「投力」の課題解決を目的として、校区内に在住のソフトボール経験者に依頼しての「ソフトボール投げ教室」も実施した。



【図 21：カヌー教室の様子】



【図 22：ソフトボール投げ教室の様子】

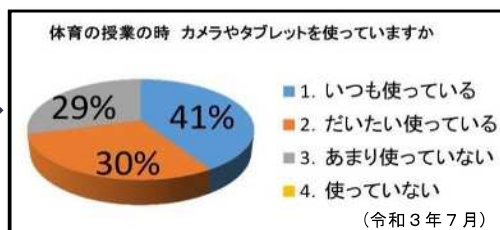
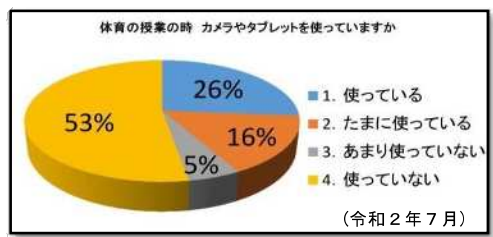
Ⅲ 成果と課題

1 成果

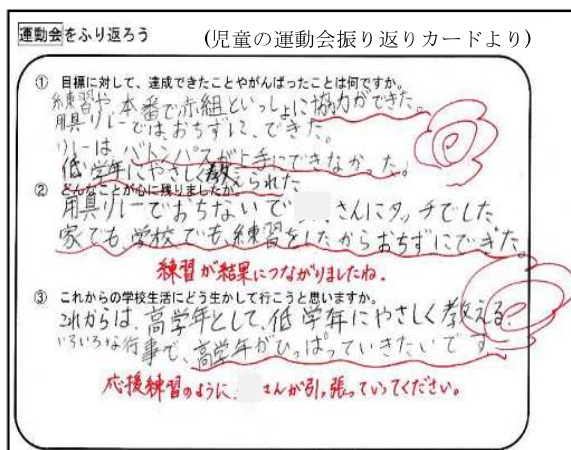
- (1) 実態把握をもとにした単元の指導計画を立てて実践することで、「ルールを考えるのが楽しかった」「自分たちで考えたルールでのゲームが楽しかった」「学んだことを生かすことができた」など、達成感や肯定感を味わいながら運動ができたことを感じる子供たちが増えてきた。また、「友達のコツをつかみたい」「友達にいいところを伝えられた」「相手のチームの〇〇がよかった」など、自ら関心をもちながら運動に取り組む子供たちの様子が多く見られるようになってきている。「新体力テストの運動習慣の実態把握」より、「体育の授業が楽しい」と答えた子供が増えており、運動に対する苦手意識の改善にもつながった。

		体育の授業について (単位：%)			
		楽しい	やや楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
県	R3	62.9	29.1	6.2	1.9
本校	R3	92.9	7.1	0	0
	R2	78.9	21.1	0	0

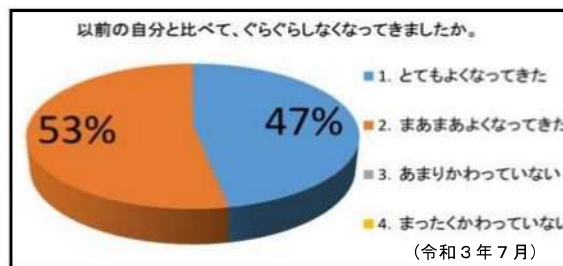
- (2) 課題解決的な学習を意識した一単位時間の指導過程を作成し、共通実践してきたことで、子供たちが主体的に運動に関わる姿が高まってきた。例えば、「友達と学習するとやる気がでる」「協力できるのが楽しい」「友達の意見を聞いて、そこから工夫することができた」など、仲間と助け合いながら課題解決に向かうよさを感じている子供が増えてきた。また、課題把握や課題解決時の ICT 機器の積極的な活用で、「どこを工夫すればよいか分かる」「気を付ける部分分かる」「画像を見て自分の課題と照らし合わせることができる」など、自分の課題を意識した学習につながってきている。



- (3) 体力向上プログラムを作成し校内に掲示することで、年間の体育的活動について学校全体で共通理解を図り、体力向上に努めることができた。また、体育的行事のめあてカードやなわとびカードの活用を図ることで、子供の課題意識が高まり行事に取り組んだり、継続的に運動に取り組んだりすることにつながった。めあてカードの振り返りでは、子供が自分の取組の成果から、次への課題意識をもち意欲を生み出すことにつながっている。



- (4) 地域人材を活用することで、専門的な指導を加えることができ、体幹の強化や新体力テストで低迷していたソフトボール投げの記録を向上させることができた。今後も積極的な活用を図っていきたい。



- (5) 新体力テストへの保護者の参加や長期休業中等の家庭における運動推進の取組を通して、学校と家庭が子供の課題について共有し、保護者の課題意識を高めることにつながった。親子で運動に取り組もうとする家庭が増えてきている。

子供の体幹姿勢の悪さが気になっていましたが、家庭だけでの取組はなかなか始まりません。困っていましたが、学校と連携することによって、子供自身が体力のなさに気づき、意識が高まったおかげでまず取組むという行動ができました。次は継続が大事だと思いますので、こまめなフォローアップのエクササイズとあわせて、日々声かけをして、一歩ずつ進んでいきたいと思います。
(保護者コメントより)

- (6) 新体力テストにおいては、体力ナビを活用して個別の課題を明らかにし、その課題に対して日々の授業や体力つくりと関連させて取り組むことで、多くの種目で県平均を上回る結果を収めることができた。

令和3年度新体力テスト 県平均との比較(県平均を上回っている種目数)		
2年	男子〔6／8種目中〕	女子〔6／8種目中〕
4年	男子〔7／8種目中〕	女子〔3／8種目中〕
5年	男子〔7／8種目中〕	女子〔8／8種目中〕
6年	男子〔6／8種目中〕	女子〔8／8種目中〕

2 課題

- (1) 友達と話し合ったり助け合ったりすることを肯定的に捉えている子供が増えてきている一方で、そのよさを感じ取っていない子供もいる。今後も一人一人をしっかり見届け、サポートをしていく必要がある。

★ 友達と話し合ったり助け合ったりする活動はどうか。〔子供の意見：令和3年7月〕
・意見を言うことや聞くことが苦手で面倒だ。・考えるのが嫌いだから苦手だ。

- (2) 本校は複式学級でA・B年度の指導計画であるため、次学年あるいは2ヶ年のつながりを意識した指導の見通しが大切である。子供たちの知識・技能の確実な習得のためにも、どのような指導を済ませたのか情報を蓄積して引き継いでいくなど工夫していく必要がある。
- (3) KOBA式体幹トレーニングについては、成果をより具体的に捉える方法について、今後研究を重ねていく必要がある。具体的成果が子供が知ることで、さらに主体的に取り組もうとする意識や積極性の向上につながっていくと考える。
- (4) 家庭における運動習慣への意識の高まりが感じられる一方で、二極化の傾向も見えてきている。「やってみようかな」「続けてみようかな」と思うような、効果的な情報や工夫した実践例の紹介など、今後も学校から積極的に発信していきたい。
- (5) 本校において、子供たちの運動への取組を充実させ活性化を図っていくためには、地域との連携は重要である。学校応援団や地域人材の効果的な活用を図るためにも、事前の打ち合わせの充実や人材の確保などが今後の課題である。
- (6) 新体力テストにおいては、「上体起こし」「ソフトボール投げ」は昨年度に引き続き全体的な課題である。家庭や地域との連携を継続させ、課題を共有し解決に取り組んでいきたい。個別の課題については、子供の継続的かつ主体的な取組につながるよう、課題意識の刺激や達成感や肯定感につながる声かけを大事にしていきたい。

終わりに

本校では、令和2・3年度の2年間、「運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成 ～「つながり」を大切にしたい取組を通して～」の研究主題のもと、子供の体力向上や運動の習慣化を目的として、研究・実践に取り組んでまいりました。特に本校では、一つ一つの取組や実践の「つながり」を強く意識し、「授業づくりでのアプローチ」「授業外の取組によるアプローチ」「家庭や地域との連携によるアプローチ」を柱として、具体的な取組を推進してまいりました。この「つながり」を意識することで、体育科の「見方・考え方」をもとにした「3つの資質・能力」を育成するための単元構想、一単位時間の指導過程、個に応じた支援の在り方など、授業づくりに役立てることができました。また、体育に限らず、子供たちが自らの考えや思いを日常的に様々な場面で表現しようとする姿勢を高めることや、さらには、子供の体力向上や運動習慣の定着に向けて、学校だけでなく、家庭や地域も共に関わっていきこうとする雰囲気醸成にもつながってきました。一つ一つの具体的実践に「つながり」の意識をもって取り組んできたことが、相乗的に新たな効果を生み出したと考えています。

本日は、これまでの研究の成果の一端を発表させていただきましたが、2年間の研究を通して成果を感じることができた部分があると同時に、一方で、新たな課題が浮き彫りになった部分もあります。これまでの取組をしっかりと振り返り、皆様からいただきました貴重な御指導や御助言をもとに、今後も子供の体力向上や運動の習慣化を目指して、継続して取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、これまでの2年間にわたり御指導いただきました鹿児島県教育庁保健体育課や始良・伊佐教育事務所、伊佐市教育委員会の先生方をはじめ、これまで様々な御指導をいただきました先生方に心から感謝申し上げますとともに、今後とも御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

〔研究同人〕

校長	下 菌 聡	教 諭	岩水 博幸	巡回図書員	山崎 由紀
教 頭	山脇 明仁	教 諭	松下 圭子	理科支援員	網屋 成人
教 諭	川元 仁美	養護教諭	前田 倫子	特別支援教育支援員	山口 陽子
教 諭	川原 維史	事務職員	日置 和大	小学校外国語活動講師	大堀百合子
教 諭	黒住 健史	校 務 員	鈴木 良一		

〔旧研究同人〕

校長	岩屋 高広	教 諭	溝口 由里	理科支援員	松尾 朋子
----	-------	------	-------	-------	-------

[参考文献・資料]

- | | | |
|---|-----------|---------|
| 小学校学習指導要領解説（体育編） | 文部科学省 | 平成 29 年 |
| 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 | 国立教育政策研究所 | 令和 2 年 |
| かごしまの子ども 体力向上プログラム<小学校版> | 鹿児島県教育委員会 | 平成 24 年 |
| 体育科の特質に応じた深い学びを実現する学習指導
小学校段階における体育の見方・考え方を働かせた学習指導の在り方の検討 | 鹿児島大学 | 平成30年 |
| 出水市立高尾野小学校 研究紀要 | 高尾野小学校 | 令和 2 年 |
| 日置市立土橋小学校 研究紀要 | 土橋小学校 | 令和 2 年 |

運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成

～ 「つながり」を大切にした取組を通して ～

編集・発行 伊佐市立羽月西小学校
〒 895-2527 鹿児島県伊佐市大口田代 277-2
TEL (FAX) 0995-28-2002 (0995-28-2052)
発行日 令和 3 年 10 月 29 日